



No.196

2023.7月



CONTENTS

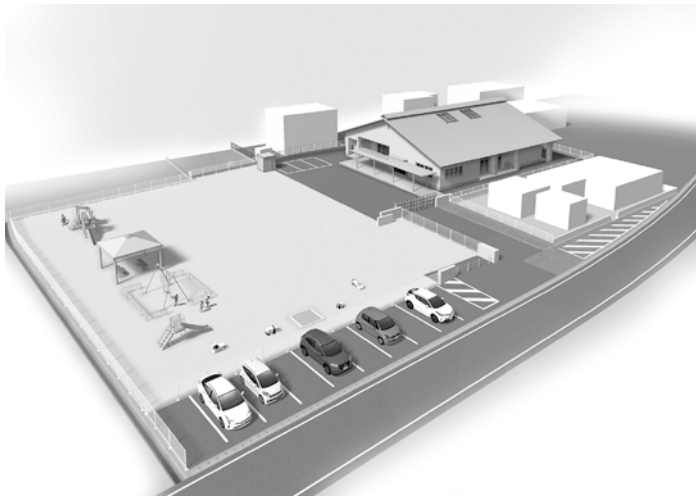
6月定例会

- 議案を審議 3～4
 - 第2回臨時会を開催
 - 第2回定例会を開催
- 一般質問 6～9
 - 6人が登壇・町長に見解を求める
- 特集 10～11
 - 給食センター開始から1年半
- 元気なグループ紹介 12
 - 「三木茂博士記念資料館を守る会」
会長 佐々木 信行

三木町 議会だより



頑張れ
ファイヤーボーイズ



▲ 新白山文化センターイメージ図

5月 定例会

物価高直撃!! 5月臨時会で

白山文化センター施設整備費に

9189万円を追加補正

令和8年6月議会は、3日から11日までの9日間で開催され、県の交付金を活用したいちごのまちプロジェクトなど、9事業676万円余の一般会計補正予算を可決した。「道の駅の誘致と産地直売所の整備に関する請願」は反対多数で不採択となった。

「町道補修及びのり面土砂崩れ防止工事に関する請願書」及び「下水道の早期敷設に関する陳情」が総務建設常任委員会に付託された。

5月臨時会が5月1日の1日間で開催され、GIGAスクール用タブレット購入費1億3585万円の財産の取得や一般会計補正予算等を承認・可決した。

一般会計補正予算(5月・6月)の主な内容

財産区議会議員補欠選挙費	250万円
白山文化センター 施設整備事業	9,189万円
いちごのまちプロジェクト (プロモーション)	227万円
保健センター管理費	42万円
小学校教育振興事業 (備品購入費)	122万円
中高連携アントレプレナー シップ教育推進事業	30万円
体育施設管理事業	67万円

一般会計補正予算(第1号～第3号)

補正前の金額	135億7,000万円
補正額	1億 116万円
補正後の金額	136億7,116万円

議案を審議

第2回臨時会

令和8年5月1日

財産の取得

町立小中学校GIGA端末

契約金額 2470台
1億3585万円
契約者 (株)大塚商会広島支店



補正予算

一般会計補正予算(第2号)

白山文化センター施設整備事業
関連について、物価高騰等の影響
が見込まれることから工事に係る
経費9189万円を追加すること
について審議した。

第2回定例会

報告第1号

三木町土地開発公社の経営
状況を説明する書類の提出

※事業の概要

①ふるさとピア尾崎団地 分譲事業

本事業は、平成14年度に住宅
用地の取得、造成及び分譲につ
いて委託された事業である。

②町道砂入荒木線用地取得事業

本事業は、平成24年度に公共
用地の取得について委託された
事業である。

★財務諸表等詳細については役場
にて閲覧可能

条例改正

選挙公報の発行に関する 条例の一部改正

今後、町執行の選挙公報の配布
方法を、郵送から新聞折込み等に
代えることができる条例の改正

三木町印鑑条例の一部改正

令和8年6月施行の入管法等の
一部改正により、特定在留カード
等でコンビニの多機能端末から印
鑑登録証明書が取得可能となるた
め、条例を整備するもの

問 溝渕委員

外国人住民のマイナンバーカ
ード保有率は。

答 住民健康課担当

町在住外国人のマイナンバー
カード保有率については、正確な
データを有していない。外国人を
含む町全体の保有率は83.7%で
ある。

問 中川委員

法律施行以降、カードは強制的
に一体化されるのか。

答 住民健康課担当

強制ではなく、これまでどおり、
在留カードとマイナンバーカード
と分けて持つこともできる。

補正予算

一般会計補正予算(第3号)

9事業総額約676万円追加補
正について審議した。

いちごのまちプロジェクト (プロモーション)

スポーツといちごを組み合わせ
た企画として、プロスポーツ観戦
時に三木町のいちごをPRするイ
ベントを実施する費用

227万円

問 溝渕委員

スポーツといちごを組み合わせ
たプロモーション事業は、一回の
みの実施か。

答 政策課長

今年度は香川ファイブアローズ
の試合1試合及びバスケット日本代表
戦のパブリックビューイングでの
実施を予定している。効果を検証
しながら、今後も県交付金への申
請を行う。

中高連携アントレプレナーシップ教育推進事業

県内への若者定着を目的として、中学生・高校生が起業家や企業と連携し地域課題の解決に取り組む事業

30万円

問 溝渕議員

事業内容や今後の展開は。

答 教育長

事業期間は本年度一年間で、三木高校と連携し、地域課題の解決につながる商品開発から販売までを共同で行う予定である。

保健センター管理費

多目的室のエアコン室外機修繕費

42万円

体育施設管理事業

町民柔剣道場の浄化槽汚水槽修繕費

67万円

請願・陳情等のゆくえ

令和8年請願第2号 令和8年2月25日受付

町道補修及びのり面土砂崩れ防止工事に関する請願書
鍋渕自治会長 三好 要子 他28名
紹介議員 渡辺 達実

委員会付託

令和8年陳情第1号 令和8年2月25日受付

下水道の早期敷設に関する陳情 國方 博之

委員会付託

委員会レポート

総務建設常任委員会

令和8年5月15日

道の駅の誘致と産地直売所の整備に関する請願

地域活性化への期待がある一方、財政負担や維持管理、運営面での課題が指摘され、採決の結果、全会一致で不採択となった。

学校施設等整備特別委員会

令和8年5月15日

小学校屋内運動場空調設備導入調査及び小学校の長寿命化改修計画

小学校体育館空調設備導入に向け、工事費や工程、空調機器の比較調査を実施。長寿命化改修計画については、劣化が進行した建物を対象に、改修内容や工事工程の説明があった。

問 富田委員

空調設備導入による予算対応と補助金活用の方針は。

答 教育総務課長

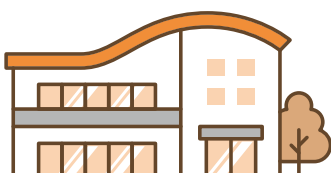
校舎改修を優先し、体育館は財政状況を踏まえ検討する。学校施設改善交付金や緊急防災減災事業債など、有利な制度を活用していく。

問 鈴木委員

空調設備の補助率は。

答 町長

防災関連の起債を活用予定とし、充当率100%で、交付税措置は、70%である。



定例会・臨時会 提出議案への各議員賛否表

賛否のあった議案のみ記載しております。 ○ 賛成 ● 反対 - 議長 欠 (欠席)

議案番号・議案名		採決	鎌倉大祐	溝淵裕子	川波礼子	福家昭三	岡昌吾	友保陽子	安西進	中川和樹	森本晃司	市原信夫	鈴木宏明	小島重俊	富田修司	渡辺達実	筒井米市
第2回臨時会																	
報告第1号	繰越明許費繰越計算書(一般会計)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
報告第2号	繰越計算書(三木町下水道事業会計)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第1号	財産の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第2号	専決処分の承認(三木町税条例の一部を改正する条例)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第3号	専決処分の承認(三木町国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第4号	専決処分の承認(令和8年度三木町一般会計補正予算(第1号))	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第5号	令和8年度三木町一般会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
第2回定例会																	
報告第1号	三木町土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第1号	選挙公報の発行に関する条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第2号	三木町印鑑条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	●	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第3号	令和8年度三木町一般会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
請願第1号	道の駅の誘致と産地直売所の整備に関する請願	不採択	●	●	○	●	●	●	●	○	●	-	●	●	●	○	●

市原信夫	鎌倉大祐	筒井米市	渡辺達実	富田修司	小島重俊	鈴木宏明	森本晃司	中川和樹	安西進	友保陽子	岡昌吾	福家昭三	川波礼子	溝淵裕子	議員氏名	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5/1	○ 出席
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/3	● 半欠
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/9	× 欠席
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6/11	○ 欠席

第2回臨時会(5月)

第2回定例会(6月)

議員出欠表

〈本会議のみ〉

一般質問

ここが聞きたい!

町政を問う



- 一般質問は、議員の日常活動と調査・研究、町民の声や自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。
- 1人60分の制限時間。議会だよりでは、質問と答弁を要約しています。詳しい内容については、インターネット中継をご覧ください。



6人が質問

早

質問者	質問事項	ページ
ふけ しょうぞう 福家 昭三	◇ 農業基盤整備	7
こじま しげとし 小島 重俊	◇ 労働問題	7
みぞぶち ゆうこ 溝渕 裕子	◇ 中東情勢の影響 ◇ 防災対策	8
わたなべ たつみ 渡辺 達実	◇ 下水道事業経営戦略	8
ともやす ようこ 友保 陽子	◇ 福祉介護制度 ◇ 教育関連	9
かまくら だいすけ 鎌倉 大祐	◇ 地域コミュニティ政策	9

問 受益者負担の限界について

答 多面的機能支払交付金の活用で



福家 昭三 議員

つぶやき

三木町の万能薬は「多面」だけど、水路にはあまり効かないよ

問 受益者負担を前提にした手法では合意形成が進まず悪循環が生じているのでは。

答 農林課長

担い手不足に伴う経済的負担増加について対応できるよう、多面的機能支払交付金の活用を推進している。

問 法定外公共物である農道・水路に対する管理者責任は、財務省通達では、行政財産であり、自治事務とあるが。

※自治事務とは自治体の判断と責任で行うべき事務。

答 土木建設課長

いわゆる財産管理を町が行っている。維持修繕や日常的な草刈り等の維持管理は、従前からの慣行により、原則として利用している地元の実行組合、水利組合、土地改良区等の団体に行ってもらっている。

地元で手に負えない大規模な改修が必要になるのは、災害（＝農業災害復旧事業の適用）となる。

答 町長

法定外公共物の維持管理の地元負担軽減については、国・県に要望を続けている。地域防災機能増進事業は維持管理にならない。



労働問題

問 人事院勧告を踏まえた賃金改定は

答 勧告どおり実施している



小島 重俊 議員

つぶやき

人事院勧告に反映された昔の苦勞

問 政府は「地域手当の見直し（廃止）」を行い、本町では3%もの賃金カットになる。特に、高齢層職員では、この間の賃金改善がなく、実質3%の減額となる。県内最低の賃金水準の中、町に尽くしてきたベテラン職員にとつては、士気低下を招くだけでなく、優秀な人材の流出にも繋がり、町の行政サービスの質の低下をもたらしかねない。現在考えている対応策は。

答 総務課長

地域手当については、人事院勧告で示されたとおり、激変緩和措置を施

し、年1%ずつ引き下げることとしている。

問 給食センターの運営委託では、町職員（給食調理員）を解雇し、委託先での再雇用を行っている。賃金改善等の実態は。

答 教育総務課長

町の給与水準を確保した上で、委託業者の規定に基づき改定を行っている。有休取得の推進など労働環境整備に取り組んで頂いている。



▲給食センターでの調理

中東情勢の影響

問 中東情勢悪化による影響は

答 公用車やこども園建設に影響ない



溝渕 裕子 議員

つぶやき
くらしにさしこむ
戦争の影響

問 中東情勢悪化により、ナフサ由来の製品が入手困難、価格も高騰し、経済活動等に影響が出ている。町の公用車やスクールバス、委託のゴミ収集車等に、エンジンオイルの供給遅延や、こども園建設工事への影響はないか。

答 総務課長

点検管理を行っている委託先に確認したところ、エンジンオイルの数量減少や価格上昇などはあるが、現在、エンジンオイルを交換できないような影響はない。

答 こども課長

こども園の建設について、可能な限り早期に資材等を発注しており、現時点では工程表どおりに進んでいる。

防災対策

問 三木町防災会議の女性委員の割合は。

また、職員全体の防災意識向上の為に、職員の防災士取得を積極的に行う考えは。

答 総務課長

防災会議は昨年見直しを行い、24名の委員のうち、8名が女性になった。保育士、保健師、女性消防団員等である。町には、防災士取得費用の補助があり、職員も数名が取得している。

下水道事業経営戦略

問 下水道事業の今後の運営を問う

答 経営戦略を新たに策定した



渡辺 達実 議員

つぶやき
SDGs
地球環境を
守りましょう

問 下水道事業経営戦略について、利用料の値上げが盛り込まれている。経営戦略の内容について、併せて浄化槽設置整備事業について問う。

答 環境下水道課長

下水道事業が公営企業として、将来にわたってサービスの提供を安定的に継続し、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上等を図るため10年間の計画を策定した。下水道建設工事に要した費用は、国および県の補助金、企業債や受益者負担金等で賄われている。

一方、施設の維持管理費や動力費など、汚水処理に要する費用は、下水道の使用料収入で賄う。浄化槽設置整備事業の補助金申請方式が変わった。年3回に分けて事前申請を受け付けることとした。抽選で補助予定者を決定していく。



▲三木浄化センター

福祉介護制度

問 高齢者の外出支援(タクシー券)の充実を

答 慎重な検討が必要



友保 陽子 議員

答 福祉介護課長
高齢者対象の助成制度はこれまでにも県内市町の状態調査をしてきたが、市町ごとにかなり差があり、事業を実施していない自治体もある。対象者をどの範囲とするか、金額設定など、慎重な検討が必要である。

問 本町は重度障害者対象のタクシー助成券制度はあるが、高齢者全体を対象とした制度はない。「敬老記念品の廃止」は今後必要とされる医療・介護・福祉等の分野に充当するために廃止したのではないか。制度拡充の考えは。

つづやき
子も老いも
支えてこそ
まちづくり



▲ 来春から廃園予定の一施設「白山幼稚園」

答 こども課長
閉鎖する施設は長年にわたり地域の生活に寄り添ってきた施設である。まんでがんふれあいホームは教育関連施設、氷上幼稚園は氷上小学校教室や児童クラブ教室に転用。その他の施設についても起債事業の要件で除却または売却することになるが検討を重ねる。

問 新こども園に伴う廃園施設の活用は。

教育関連

地域コミュニティ政策

問 自治会維持への支援は

答 助成制度の周知と負担軽減に努める



鎌倉 大祐 議員

答 地域活性課長
自治会館の維持管理や修繕は地域の大きな課題と認識しており、施設整備への助成や自治会加入促進、自主防災活動への支援を行っている。
今後は、自治会の実情や課題を把握しながら、既存制度の活用支援によって負担軽減につなげるとともに、自治会に依頼している業務についても必要性や実施方法を検証し、持続可能な地域コ

問 担い手不足や高齢化が進む中、自治会活動を維持していくため、町はどのような支援や負担軽減策を考えているのか。

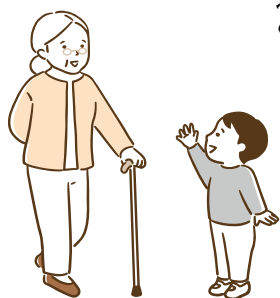
つづやき
残したい
地域のつながり
未来まで

問 地域コミュニティ政策を総合的かつ横断的に進めるための体制整備が必要ではないか。

コミュニティづくりに取り組む。

答 地域活性課長

現在は各担当課がそれぞれの専門分野を所管しているが、人口減少や少子高齢化が進む中、課題を総合的かつ横断的に捉えることが重要である。そのため、関係各課が連携しながら施策を推進していくことが重要であり、今後も効果的な推進体制のあり方について研究を進める。



給食センター 開始から1年半 三木町の小学校給食は今

学校給食は、子どもたちにとって最も楽しい時間。大人になっても忘れられない味があるように、給食は思い出とともに心に残ります。

2024年9月、三木町の小学校給食は自校式から給食センター方式へ移行し、調理業務も町の直営から、(株)メフォスへ委託されました。稼働から1年半が経過した今、給食の「おいしさ」「安全性」「食育」はどう変わったのか。編集委員4名でセンターを訪問し、教育総務課、栄養教諭、メフォス担当者、調理員それぞれから、お話を伺いました。



▲手作業で半分に切ったナスをスライサーにかけています

給食センターは鹿庭コミュニティセンターの横にあります。建物の1階が調理場、2階には調理の様子を見学できる吹き抜け窓があります。最大2200食まで調理可能で、現在は町内4小学校の1550食を調理しています。一日に約15人の調理員が働いています。

朝7時過ぎから食材の荷受けが始まり、8時には調理開始です。10時45分から小学校への配送車が出発するため、調理場はフル回転です。

最新設備で実現

「衛生的で

働きやすい環境」

センターではドライシステムを採用し、汚染区域と清潔区域を明確に分離しています。調理員は入室前に専用靴へ履き替え、エアシャワーでほこりを落とします。

作業内容に応じてエプロンや靴の色を変えることで、交差汚染を防ぐ仕組みです。

調理員は「自校調理場では夏場の暑さが大変でしたが、センターでは空調が整い、熱中症の心配がなくなりました」と話します。

「おいしさを支える技術

センターでは、調理器具は大幅に充実し、自校時は「釜とフライヤーのみ」でした。しかし、現在は、スチームコンベクション、真空冷却機、大型回転釜などが揃い、作業効率と安全性が向上し、メニューの幅も増えたそうです。

「ご飯は温かいまま、

和え物は冷やして

現在、一日約120キログラムのご飯を炊飯し、反転ほぐし機で均一に混ぜ、保温食缶で温かいまま配送します。「ご飯が美味しかった」という声が多く寄せられているそうです。

和え物は、真空冷却機により、冷却と脱水が同時にできるため、衛生性と品質が大きく向上しました。



▲ なすと豚肉のあまから丼

三木町らしい献立づくり

三木町には2名の栄養教諭が在籍しています。そのお一人である西森栄養教諭は、午前中は給食センターへ勤務し献立作成、発注業務などを行い、午後からは各学校を回り、児童の様子を確認したり、食育の授業を行っています。

西森栄養教諭に、献立作成の工夫など、詳しくお話を伺いました。

―地産地消を最優先に―

献立作成では、「三木町産を最優先、次に県産、国産の順で使用する」という方針を徹底しています。様々な食材が高騰していますが、町や県の補助を活用し、対応しています。昨年は県の「地産食材活用事業」により、シャインマスカットやさめきサーモンを使った献立もありました。

―人気メニューも継続

手作りハンバーグ、バイキング給食など、自校調理で人気だったメニューを継続するための設備を

導入しました。また、納入業者との調整やメフオスとの打ち合わせも重ねています。

―子どもたちの声をいかして

今も昔も変わらず、「揚げパン」は人気ナンバーワンメニュー。一方、当初使っていた麺が子どもたちに不評だという声を受け、業者を変更する等の対応をしています。給食の残食率は2%程度で、ほぼ完食に近い状況です。

―食育の取り組みも継続

豆嫌いを減らす為に行ってきた児童による「豆のさやむき」や、J A女性部の手作り味噌や黒大豆とうふの提供なども継続しています。「三木町といえば黒大豆」と子どもたちが答えるほど、黒大豆とうふは定着しています。

―アレルギー対応は段階的に実施

センターには「アレルギー専用調理室」が整備され、現在は「卵・エビ・カニ・アーモンド」の除去

食に対応しています。除去食の拡大について教育総務課は「慎重に進めながら、対応食を少しずつ増やしていきたい」と話します。



▲炊きあがったご飯は、自動で混ぜられ保温容器へ

―中学校給食もセンターへ

2027年度からは三木中学校の約750食もセンターに移行する予定です。小中共通献立の可否、食材調達、調理員配置など、今後、確認すべき点もあります。

―もっと給食を知りたい

今回の取材を通じ、食数が増え、ても三木町の「おいしい給食」を守

る工夫が続けられていることや、作り手の思いが強く伝わってきた。見学の機会を増やし、より多くの町民に給食の現状を知っていただきたいと感じました。

一方、今回は取材できなかった、実際に食べている子どもたちやその保護者、食材を納入している農家など、様々な立場の方の声も聞きしたいと思いました。

給食は、子どもの成長と豊かな心を育む大切な教育の一環です。食に関わるすべての方への、感謝を忘れず、議会としても、より良い給食をめざして取り組んでまいります。



▲各小学校へ給食配送車で運ばれます

元気なグループ紹介

三木茂博士記念資料館を守る会

会長 佐々木 信行

三木茂博士とメタセコイア

三木町は化石植物として広くその名が知られているメタセコイアの発見者、三木茂博士の生まれ故郷である。三木茂博士は三木町の鹿庭に生まれ、この地で育ったが、鹿庭にはその生家跡が今も残されている。

三木茂博士の生家跡は近年、記念公園として整備され、博士宅の蔵は資料館として利用されている。資料館では博士の数々の写真や貴重な資料、業績の記念展示を見ることができ、生家から2キロメートルほど離れた山大寺池のほとりには、太古の森として、2千7百本のメタセコイアの森が広がるのを見ることが出来る。

また、2023年には三木茂博士の映画製作が企画され、翌年にかけて映画が撮影・制作され、県内外で上映会が開催された。

さらに、本年2026年には新たに資料館2階の有効活用として、整備改修が行われ、資料館2階の展示も充実したものとなっている。

今後とも会員一同、定期的な清掃活動を中心に、地域に開かれた場として心を一つにして、三木茂博士の業績を後世に残していけるよう尽力していきたいと考えている。



お気軽に議会を傍聴しませんか

本会議の傍聴人の定員は30人です。

●お問い合わせは、議会事務局へ
☎087(891)3311

次の定例会は
9月上旬の
予定です。

インターネット中継
サイトはこちら



編集を終えて

「人は、生命をより良い形で次の世代へ伝えるために生きる」
(中村天風)

この言葉は、森信三先生や岡正篤先生の教えとも重なります。

「狭義の自己実現」が中心の時代ですが、未来を担う世代に何を手渡すのか――その視点を地域で共有できればと思います。

福家 昭三



議会だよりは私たちが編集しています。

編集委員長 溝渕 裕子
同 副委員長 友保 陽子
同 委員 森本 晃司
同 委員 中川 和樹
同 委員 岡 昌吾
同 委員 福家 昭三
同 委員 川波 礼子
同 委員 鎌倉 大祐